

## 令和4年度 第2回 鶴見区地域福祉保健計画（鶴見・あいねっと）推進委員会 議事要旨

日時 : 令和5年1月20日（金）15:00～16:30

場所 : 鶴見区役所 1階予防接種室

推進委員 : 新田委員長、八森副委員長、

板山委員、押山委員、門脇委員、小清水委員、小林委員、斉藤委員、清水委員、谷委員、

富樫委員、日向委員、福井委員、増子委員

（欠席：石井委員、渡邊委員）

事務局 : 【区役所】

鶴見区長、鶴見区副区長、福祉保健センター長、福祉保健センター担当部長、福祉保健課長、

高齢・障害支援課長、こども家庭支援課長生活支援課長、生活支援課担当課長、

区政推進課長、高齢・障害支援課地域包括ケア推進担当係長、福祉保健課事業企画担当係長、

事業企画担当職員

【区社協】

事務局長、事務局次長、事務局職員

### 1 開会（進行：福祉保健課事業企画担当係長）

写真撮影の承認及び議事録のホームページへの掲載について確認

### 2 委員長あいさつ

4年振りの推進フォーラム開催となる。コロナ禍でも各地区で活動が進められてきた。推進フォーラムが成功するよう話し合いを行いたい。

### 3 区長あいさつ

第1回推進委員会は欠席だったので、委員会出席は初めて。地域福祉保健の活動にそれぞれの立場で協力いただいていることへの御礼を申し上げる。コロナ禍で、地域住民や関係団体が思うように活動ができない中でも、それぞれに工夫しながら活動いただいている。本日は、推進フォーラムについて説明させていただいた後、昨年度策定した第4期地域福祉保健計画（鶴見・あいねっと）の推進の土台について、意見交換を行う。それぞれの立場からご意見いただきたい。

### 4 議事（進行：副委員長）

4年ぶりに開催する推進フォーラムに向けて話し合いを行う。議事（1）は鶴見・あいねっと推進フォーラムについて、議題（2）の意見交換では、第4期計画の更なる推進に向けて「推進の土台」について意見交換したい。議題（3）では、横浜型地域包括ケアシステムの構築に向けた鶴見区アクションプランについての説明を行う。その他、委員から別のテーマ等があればご意見お願いしたい。

#### (1) 第17回鶴見・あいねっと推進フォーラムについて

資料2（第17回鶴見・あいねっと推進フォーラム チラシ）をもとに、次の通り説明。

（説明：区社協事務局次長）

4年ぶりの鶴見・あいねっと推進フォーラムの開催に向けてチラシが完成した。2月18日（土）午後、場所はサルビアホール。内容は、第1部で社会福祉功労者感謝会、第2部で地域活動の3

つの事例を発表する。裏面に発表事例の紹介文等が載っているので、参照いただきたい。当日、参加可能な方は、会場にお越しいただきたい。

資料3（第17回鶴見・あいねっと推進フォーラム 冊子）を基に、次の通り説明。

（説明：福祉保健課事業企画担当係長）

冊子は、鶴見・あいねっと推進フォーラムの来場者に配付する。冊子の内容について、冒頭で「第4期鶴見・あいねっとスタート」の挨拶文を掲載している。次に掲載しているプログラムについて、第1部が社会福祉功労者感謝会、第2部が地域活動の事例について3団体から発表してもらい意見交換を行う。2ページに鶴見・あいねっとについての説明を掲載しており、第4期計画の推進の土台について広く区民に知ってもらうよう掲載している。3ページでは、4期計画の公表、PR動画のホームページへの掲載、推進委員会の開催等、令和4年度の取組について掲載している。4、5ページにおいて、推進の土台「人材」「相互理解」「場・機会」に関連する3つの事例発表団体について紹介している。また、あいねっと抽選会について掲載している。6ページに地区別計画についての説明、7ページに各地区のキャッチフレーズ等の紹介、8ページ以降に18地区の取組を掲載している。18地区の取組の構成としては、見開きの左ページに地域の基本情報と第4期地区別計画を掲載し、右ページに地区のニュース、あいねっとにつながる地域の活動紹介を掲載している。44、45ページに、ボランティアセンターの紹介とボランティア・市民活動団体分科会の参加団体の紹介を行っている。46ページに鶴見・あいねっとの歩みを紹介している。

冊子の全体的な構成について、これまでの冊子との変更点としては、社会福祉活動功労顕彰者一覧は冊子に掲載せず別紙にして当日配付にした。また、全体的にページ数を減らすことでコンパクトで見やすくなるよう工夫した。

（進行）

今年度の推進フォーラムの企画及び冊子について、委員の意見も踏まえながら、具体的な活動がイメージできるよう工夫されている。この内容について委員の皆様からご承認いただくことでよろしいか。→特になし。承認。

## (2) 意見交換 ～第4期計画の更なる推進に向けて～

（進行）

すべての地域活動を充実させる共通の要素である推進の土台「人材」「相互理解」「場・機会」について、それぞれの視点からご意見いただきたい。まず、推進フォーラムの事例発表で上映する取組紹介動画を観ていただいた上で、一人、2～3分コメントいただきたい。やよい会、ガイドボランティア活動、矢向小学校における取組の3つの発表は、推進の土台に関連付けて選出された。

（やよい会、ガイドボランティア活動、矢向小学校における取組の動画を視聴）

（進行）

あいねっとを子ども達に語ってもらうことで、いろいろな人に地域活動について伝えることができたり、地域活動を行っていて良かったと思ってもらえるのではないかと感じた。これから意見交換を行うが、動画の内容も踏まえて、日頃の活動の内容、思っていること、抱負等も含めて、推進の土台である「人材」「相互理解」「場・機会」の内、いずれかについて意見をもらいたい。

(委員)

ガイドボランティアの活動紹介の動画に出ている方と母親をよく知っており、母親は本人が大人になっても地域で生活していくので、本人の特性などをオープンにして生活していくという思いのもと、各施設とのつながりを築いてきた。動画を見て、そのことを実感でき、感動した。また、地域活動に携わっている皆さんのそれぞれの活動はつながっていると感じた。

(進行)

本人がつないでくれたネットワークや支え、支えられている関係性が実践されているように思った。また、推進の土台のうちいずれかについてご意見いただきたいという話をしたが、委員のお話は、人と人が接する場・機会があって、その中でお互いを理解して、その方々が他の人を育てるといふ、推進の土台の3つがつながったようなお話だった。

(委員)

スポーツ推進委員は、地域の運動会や、子どもを対象としたスポーツを行う行事の企画・運営を行っている。コロナ禍で、地域の運動会は縮小、中止等の状況があったが、球技大会については2つの連合町内会で協働して開催できた。

地域では、子ども会が減少しており、子ども達が地域で遊べる場・機会が少なくなっている。それによって、保護者とつながる機会も減っていると感じる。子ども会に加入する児童は減少しており、親や住民の考えも多様化しているが、できるだけ子ども達が遊べる場・機会をつくっていききたい。矢向小学校の動画で、子ども達による地域住民との交流を広げている取組を見て、親も含めて多くの住民に観てもらいたいと思った。これからも、子ども達が地域で遊べる場・機会をつくっていききたい。そして、子ども達との交流を通して親ともつながり、地域の人材づくりを行っていききたい。

(進行)

コロナ禍にあっても、一人でも多くの子どもが遊べる場・機会をつくろうと取り組んでいることが分かった。委員が行っている取組において、子どもの親世代の考え方がポイントになるが、矢向小の動画に出てきた子ども達による取組を多くの方に知ってもらうことで、地域活動のさらなる推進につながるのではないかというお話だった。

(委員)

同じ地区連合町内会の中でも、自治会町内会によって、町の行事を行うところと行わないところがある。コロナ前は子どもと高齢者がカレーを食べながら交流する場・機会があったが、今は行っていない。地域での交流の場・機会がないことが当たり前となってしまう、子どもの親世代を含めた地域住民の中には、そのような場・機会をつくろうという思いが薄れているように感じる。矢向小学校の動画で、児童が自分の思いを話している姿を見て、多くの子ども達や親に見せたいと思った。

また、地域の親子の居場所について、現在は再開しているが、3年程開催しなかったうちに、休止前に参加していた親子が子どもの成長等もあり来なくなり、担い手である民生委員が当時の参加者が元気になっているか心配することがある。先日は、わっくんひろばの施設長に来てもらい、子育て等についての話をしてもらった。これからも機会があれば連携していきたい。

地域での見守りについて、以前作成した地域独自の見守りのマップをどうするか検討している。民生委員による訪問・見守り活動について、コロナ禍では手紙や電話での見守りが中心だったが、これからは少しずつ、訪問して見守りをしている方と顔を見てお話しができるようにしていきたい。

(進行)

コロナ禍を理由にして、地域活動が中止・縮小することが心配というお話だった。そのような中でも、推進フォーラムを機に、地域活動が活性化し再スタートできれば良いというお話だった。

(委員)

推進の土台の人材について、令和4年12月に3年に1度の民生委員児童委員の一斉改選があり、鶴見区は民生委員児童委員の充足率が横浜市18区で1位になり、3年間の担い手の確保ができたと考えている。新任の民生委員に対する研修等を行い、組織の充実を図っていきたい。約3年間のコロナ禍で訪問活動ができない状況があるが、原点に戻り再スタートしたい。

場・機会について、一人暮らし高齢者や災害時要援護者の訪問・見守り等が停滞している状況があるが、対策を検討して、推進していきたい。

(進行)

人材確保において、担い手である民生委員の充足率が18区で最も高いことは、鶴見区にとって大きな力になるというお話だった。

(委員)

障害児者の地域活動の拠点施設にて、相談支援事業、18歳以降の日中活動支援事業、一時預かり・一時宿泊等を行っている。推進の土台の相互理解につながる取組として、「鶴見で見かけた『イイネ!』なよりそい」というチラシを配布している。例えば、障害者が地域で生活している中で、独り言やマスクを十分にかけていない等の言動に対する周りの人からの目線で、本人が不安定となることもある。このチラシを通して、障害のある人の行動について知ってもらうきっかけにしたい。

また、相互理解について、ガイドボランティアの動画を観て、動画はインパクトがあると思った。付き添っているガイドボランティアさんの距離感、表情を伝えることが障害のある人に対する理解につながると思った。障害のある人に対する理解は、関わる人を通して行われる。あいねっとでの取組の紹介が、関係機関による取組と相互に作用し合って、相互理解につながると思った。

(進行)

相互理解においての難しさ等の話があったが、紹介があったチラシは、障害のある人について知ってもらうために有効なものだと思う。動画により、間、距離、状況、雰囲気により伝わりやすいため、動画を通して相互理解についての普及啓発できるというお話だった。

(委員)

一週間程前、認知症サポーター養成講座の依頼を受けて、鶴見区内の高校で講師として講座を行った。テキストやDVDを使った説明の後のグループワークの中で、実体験含めたさまざまな活動を話すと、生き生きとした表情で聞いてくれた。この授業を選択した理由を聞くと、子どもから大人までいろいろな年齢層に関する授業を受けることができるので、コミュニケーション力、会話を磨きたいという思いから授業を選択した等の話があった。このような生徒との交流の中で、今回のような講座を通して、担い手が育って行くことを実感した。

また、ヘルスメイトの活動で講演会に参加し、講師から、社会参加が健康につながる、人とつながることが健康への近道という話を聞いた。矢向小の動画の中で、子ども達が人とつながることの大切さを発信していたが、まずは、鶴見・あいねっと推進委員メンバー同士がつながり、それぞれの所属でのつながりを広げることが大事だと思った。推進委員のメンバーみんなで頑張っていきたい。

(進行)

高校生への認知症サポーター養成講座や矢向小学校の動画を通して、担い手が育っていることを実感している中で、子ども達の活動から気付きをもらい、推進委員のメンバー同士がつながることをあいねっとで実践していけば良いのではないかというお話だった。

(委員)

矢向小学校の動画を観て、子ども達の表情が良く分かり、活動の様子や子ども達の思いが伝わってきた。わっくんひろばは、地域の子育てサロンのサポートもしており、現在は、子育てサロンのネットワーク会議ができていないこともあり、通信を発行することになった。その中でいくつかのサロンを取材し、クリスマス会など楽しく活動している様子を見ることができた。通信も活用して、子育てサロン等についての情報を発信していきたい。

わっくんひろばでは、居場所の他に、妊娠期からの切れ目のない支援として、妊婦対象の沐浴体験を行っている。また、育児の不安を軽減するため、プレママプレパパの会で、すごろくを使った出産後の疑似体験や子育て応援ガイドブックを使ったワーク等を行っている。不安を抱えながら子育てしている方の中で、居場所に来ていない方も多いのではないかと思うので、地域の公園に出張する居場所も継続しており、地域ケアプラザ等と連携して地域の子育てに関する情報を提供したり、子育て相談を行っている。

(進行)

親子の居場所を広げていく活動を行っており、居場所を集って親子同士がつながることが大事だし、コロナ禍でそのような場のニーズは高まっている中で、活動が成長しているというお話だった。

(委員)

高齢者の孤立が社会問題になっている。一人暮らしの高齢者の増加や集合住宅が多くなっている中で、ご近所同士のつながりが薄れている。そういった中で、高齢者への支援が必要となっている。老人会では、今年度は、地域支え合い応援事業として、区、区社協、ケアプラザと協働して友愛活動を行っており、多様な生活支援や支え合い、多様な居場所づくり、必要な情報の伝達を進めている。友愛活動員の勉強会を3回に分けて行ったり、3地区でサロンの研修会を開催する等の活動を行った。

また、認知症サポーター養成講座について、今年度は、地域ケアプラザに出張して4回開催し、約150名が参加した。次年度も、開催していないケアプラザにて開催予定。今後、キャラバンメイトのメンバーを増やして、いろいろな場所で出前講座を行っていきたい。今年も鶴見中学校で認知症サポーター養成講座を行う予定だが、若年性認知症の話もしていきたい。地域貢献活動として、ケアプラザと連携して、地域のスーパーマーケットにて職員の方に講座を行っている。今後も、一つひとつの活動を継続していきたい。

(進行)

友愛活動についてのお話と、認知症サポーター養成講座など出向いて活動しているというお話をしていただいた。

(委員)

精神障害者の家族を支える仕事をしている。精神疾患ははっきりとした原因が分からない面があり、妄想、幻聴や器物破損や暴力等の行動を伴うこともあるため、家族をどう支えていくか試行錯誤している。今後も、治療方法について働きかけるとともに、家族に希望をもたせる場をつくるこ

とが家族会にできることだと考えている。地域住民、関係機関と連携しながら、取組を進めていきたい。

(進行)

精神障害者の家族に希望を与える場づくりや精神障害についての理解を広げていくことが大事だというお話をしていただいた。

(委員)

保健活動推進委員会は、地域住民がいつまでも明るく楽しく過ごせるよう活動している。コロナ禍で町内会館やケアプラザ等が利用できなかった時は活動できなかったことがあったが、感染予防対策を行い活動を再開した。子育て支援として、赤ちゃん会や親子の居場所での支援を行っており、参加者が少ないこともあるが、参加者が喜んでくれる姿を活力にして、一生懸命に活動を行っている。健康づくり事業について、令和4年度の活動は、ウォーキング、体操教室、健康チェックが中心だった。ウォーキングの参加者数を少なくする等の工夫を行いながら、コロナ禍においても、できる活動を継続してきた。臨海フェスティバルでは、体組成計、足指力測定、骨密度、握力測定、身長計測、乳がん触診モデル等の健康チェックのブースを設けたところ、大変好評だった。ケアプラザでのイベントで行った際も、交流しながら健康チェックできる機会が大事との声が数多くあった。今後もこのような活動を継続していきたい。

(進行)

コロナ禍において活動の機会が減少した時期もあったが、地域住民に対する健康づくりの情報や大切さを伝える機会を通して、健康づくりの取組に対する地域住民のニーズが高いことを改めて確認したというお話だった。

(委員)

やよい会は、駒岡ケアプラザのエリアでの活動で、コロナ禍でも活動を継続していた。支援する側としても心配はあったが、活動内容を工夫しながら継続してきた。さまざまな活動の担い手からは、コロナ禍において、人や団体によっていろいろな考え方があり、実施しても、実施しなくても賛否両論あるので、判断が難しいという声を聞く。これから、活動を休止している団体についても、再開に向けて動き出す際には、できる範囲で支援を行っていこうと思う。

地域活動は広がっており、あいねっとについての話をする機会も徐々に増えているが、活動の内容・やり方が3年前に戻るのには時間がかかる。やよい会は、コロナ前の内容には戻っていないが、内容ややり方を工夫しながら活動を継続しており、他の活動の参考になるのではないかと。

今後は、コロナ禍で失ったものを取り戻すという視点だけでなく、新しいつながりづくりやICTの活用など、新しいかたちの地域づくりに向けて、協力していきたい。

(進行)

コロナ禍で活動を継続していても休止していても、支援していくというお話だった。また、コロナ禍で得られたものもあるというお話は、今回の推進フォーラムにも活かすことができるのではないかと。

(委員)

鶴見区内のケアプラザ所長会での話し合いの中で、コロナ禍で各団体が新たなやり方での活動を模索しながら実施している中で、少人数だからこそ、それまでは参加しなかった方が参加して新たなつながりができているという話が出ている。また、担い手について、コロナ禍でどのような方法・

内容であれば、地域住民が参加できるか、楽しめるかについて、担い手の皆さん自身で考える機会が増えることで、新たなまちづくりが始まっているのではないかという話をしている。

担い手の高齢化や担い手不足と言われてきたが、コロナ禍がきっかけとなり、ICT を活用して新たな人材が見つかった。また、コロナ禍での活動について、地域住民が考えることで相互理解が進んでいる。コロナ禍においても、地域住民は新たなステージで推進の土台の取組を進めていると実感している。今後も地域住民と共に取組を推進していきたい。

(進行)

ピンチはチャンスであり、考えることで新しい視点も生まれており、それが次の取組につながっていくというお話だった。

(委員)

自治会町内会としては、地域で行われている活動について広く周知することで、地域活動への参加を促進できるよう取り組んでいきたい。このような広報活動により、地域での居場所づくりにつながると思う。住民同士が互いの理解を深めながら、自治会町内会での活動を広げる努力をしていきたい。

(委員)

3つの団体の動画を視聴し、各委員からお話いただいた。コロナ禍で学んだこともあるというお話もいただいた。今回の推進フォーラムは、子ども達の姿をとおして新たな人材をつくっていく力を感じてもらい、各団体の実際の活動を知ってもらうことで、推進フォーラムに参加した方が心を動かされて一歩踏み出し、あいねっとの再スタートとなるような内容になるのではないかと思う。

### (3) その他

横浜型地域包括ケアシステムの構築に向けた鶴見区アクションプランについて

(説明：高齢・障害支援課長)

資料4（横浜型地域包括ケアシステムの構築に向けた鶴見区アクションプランの振り返り）を基に、次の通り説明。

認知症サポーター養成講座、サロン運営、一人暮らし高齢者への見守り活動、健康づくりのための活動など、さまざまな活動における取組成果は、地域住民によるものだと考えている。今回、鶴見区アクションプランの5つの項目において達成状況等をまとめたので、ご覧いただきたい。

地域活動等の運営に関して、担い手不足、コロナ禍での活動自粛、地域住民の活動参加への理解など、運営面での課題が数多くあると聞いている。そのような状況の中でも、保健師や社会福祉職等の専門職や行政職員による支援を行いながら、活動の維持・発展を目指していきたい。また、庁内の関係各課や関係機関と連携して、地域活動を広く区民に情報提供していくことにより、活動への理解を広げ、担い手を増やすことに寄与していきたい。

2025年に向けて、区社協、ケアプラザと協力して取り組みを進めていきたい。

(進行)

意見等あれば、個別にお願いしたい。

## 4 閉会

(委員長)

皆様、熱心な討議をありがとうございました。推進フォーラムが、鶴見区内で行われている地域活動を知ってもらう機会になれば良いと思う。本日はありがとうございました。